

(19) **日本国特許庁(JP)**

(12) **特 許 公 報 (B2)**

(11) 特許番号

特許第3962144号

(P3962144)

(45) 発行日 平成19年8月22日(2007.8.22)

(24) 登録日 平成19年5月25日 (2007.5.25)

(51) Int.Cl.

F 1

EO 4 F 19/04 (2006.01)

EO 4 F 19/04 101 G

請求項の数 4 (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願平10-33635	(73) 特許権者	000000413
(22) 出願日	平成10年1月29日 (1998.1.29)		永大産業株式会社
(65) 公開番号	特開平11-210216		大阪府大阪市住之江区平林南2丁目10番60号
(43) 公開日	平成11年8月3日 (1999.8.3)	(72) 発明者	西村 光雄
審査請求日	平成17年1月21日 (2005.1.21)		大阪府大阪市住之江区平林南2丁目10番60号 永大産業株式会社内
		審査官	大谷 純

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 幅木および幅木と床材の納まり構造

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

壁（１）と床下地（２）上に敷設される床材（３）との間に位置付けられる幅木であり、横長長方形形状の幅木（６）本体と、この幅木（６）本体の裏面に固定される弾性材（７）とからなる幅木であって、幅木（６）本体は少なくとも上下二部材から形成されており、下方に位置付けられる幅木（６ｂ）本体の高さ寸法は床材（３）の厚み寸法とほぼ同寸法であり、この幅木（６ｂ）本体と、上方に位置付けられる幅木（６ａ）本体とは接続されていないことを特徴とする幅木。

【請求項 2】

幅木（６）の少なくとも床材（３）の端部（４）を当接させた時に露出する部分が化粧シ－ト材（９）によって被覆されていることを特徴とする請求項１記載の幅木。

【請求項 3】

下面が床下地（２）表面に、裏面が壁（１）表面に接触するように位置付けられる幅木（６）と、幅木（６）の表面にその端部（４）が突き当てられる床材（３）との納まり構造であり、弾性材（７）の裏面が壁（１）表面に固定され、弾性材（７）の前面に、その下面が床下地（２）表面に接触する幅木（６）本体が固定されて構成される幅木（６）本体の前面に床下地（２）上に敷設される床材（３）の端部が突き付けられることを特徴とする幅木と床材の納まり構造であって、幅木（６）本体が少なくとも上下二部材から構成されており、下方に位置付けられる幅木（６ｂ）本体の高さ寸法は床材（３）の厚み寸法とほぼ同じであり、この幅木（６ｂ）本体と上方に位置付けられる幅木（６ａ）本体とは

10

20

互いに接続されていないことを特徴とする幅木と床材の納まり構造。

【請求項 4】

幅木（6）の少なくとも床材（3）の端部（4）を当接させた時に露出する部分が化粧シ - ト材（9）によって貼着されていることを特徴とする請求項 3 記載の幅木と床材の納まり構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は幅木本体と弾性材とからなる幅木、およびこの幅木と床材の納まり構造に係るものである。

10

【0002】

【発明が解決しようとする課題】

従来、床材は幅木を壁に取り付けた後に幅木の前面にその端部を突き当てることによって床下地に固定されていた。しかし、床材は水分などの影響によって伸縮するという特徴があるために床材が伸張した場合に幅木を押圧して幅木を損傷させるということがあった。そのために例えば床材の厚みに合わせた高さの弾性材を壁に取り付けてこの弾性体の上に幅木を載置するという方法も考えられたが弾性材は伸縮するために幅木の位置決めをするのが困難であるという欠点があった。

【0003】

【課題を解決するための手段】

20

本発明は第 1 発明として、壁と床下地上に敷設される床材との間に位置付けられる幅木であり、横長長方形形状の幅木本体と、この幅木本体の裏面に固定される弾性材とからなる幅木であって、幅木本体は少なくとも上下二部材から形成されており、下方に位置付けられる幅木本体の高さ寸法は床材の厚み寸法とほぼ同寸法であり、この幅木本体と、上方に位置付けられる幅木本体とは接続されていないことを特徴とする幅木、また第 2 発明として、第 1 発明の具体的実施形態に係り、幅木の少なくとも床材の端部を当接させた時に露出する部分が化粧シ - ト材によって被覆されていることを特徴とする幅木、また第 3 発明として、下面が床下地表面に、裏面が壁表面に接触するように位置付けられる幅木と、幅木の表面にその端部が突き当てられる床材との納まり構造であり、弾性材の裏面が壁表面に固定され、弾性材の前面に、その下面が床下地表面に接触する幅木本体が固定されて構成される幅木本体の前面に床下地上に敷設される床材の端部が突き付けられることを特徴とする幅木と床材の納まり構造であって、幅木本体が少なくとも上下二部材から構成されており、下方に位置付けられる幅木本体の高さ寸法は床材の厚み寸法とほぼ同じであり、この幅木本体と上方に位置付けられる幅木本体とは互いに接続されていないことを特徴とする幅木と床材の納まり構造、また第 4 発明として、第 3 発明の具体的実施形態に係り、幅木の少なくとも床材の端部を当接させた時に露出する部分が化粧シ - ト材によって貼着されていることを特徴とする幅木と床材の納まり構造に係るものである。

30

【0004】

【発明の実施の態様】

図 1 は弾性材が幅木本体の後方に位置付けられている幅木と床材の納まり構造を示す要部縦断面図である。幅木 6 本体について説明する。この幅木 6 本体は長さ寸法 3, 950 mm、厚み寸法 15 mm、高さ寸法 70 mm の無垢材に塗装が施されて形成されているものであるが、寸法、材質などはこれに限定されるものではない。この幅木 6 本体の裏面には長さ寸法 3, 950 mm、厚み寸法 5 mm、高さ寸法 70 mm の軟質の合成樹脂から成型された弾性材 9 が貼着されている。この弾性材 9 の上面は幅木 6 本体と同じ色で塗装されているが、弾性材 9 そのものの色が幅木 6 本体と同じ色であるものを使用することも考えられる。この弾性材 9 の材質およびそれぞれの寸法はこれに限定されるものではなく、特に材質に関しては力を加えた時に収縮するものであれば何でも構わない。次に幅木および床材の施工方法について説明する。まず、幅木 6 本体の裏面に貼着された弾性材 7 の裏面に接着剤を塗布して壁 1 に固定する。この幅木 6 の固定方法としては他にも両面テ - プを

40

50

使用する等、様々な方法が考えられる。幅木 6 本体は弾性材 7 を介して壁 1 に固定される形となる。最後に床材 3 の長さ方向の端部 4 をこの幅木 6 本体の前面に当接させ、床材 3 を接着剤を使用して固定する。この床材 3 の裏面には緩衝材 10 が貼着されており、床下地 2 上に直接固定することが可能である。また、緩衝材 10 が貼着されていない床材 3 を根太を介して床下地 2 上に敷設することも考えられる。

【0005】

図 2 は弾性材が幅木本体の後方に位置付けられている幅木と床材の納まり構造を示す要部縦断面図である。この幅木 6 本体の寸法および材質は図 1 において説明した幅木 6 本体と同じであるが、上面にのみ塗装を施しているという点異なる。また、弾性材 7 の寸法および材質も図 1 において説明した弾性材とほぼ同じであるが、この弾性材 7 は幅木 6 本体の前方に位置付けられるものであり、意匠性を向上させるために上部に面取り加工が施されている。また、その前面および上面は幅木 2 本体と同じ色で塗装されている。次に幅木および床材の施工方法について説明する。まず、幅木 6 本体の表面に弾性材 7 を接着剤を使用して貼着、固定する。弾性材 7 の固定手段としてはこれに限定されるものではなく他にも両面テープを使用して固定することなどが考えられる。次に幅木 6 本体の裏面および下面に接着剤を塗布し、その裏面を壁 1 に、また、下面を床下地 2 に当接させてこの幅木 6 を固定する。最後に床材 3 の長さ方向の端部 4 をこの弾性材 7 の前面に当接させ、床材 3 を接着剤を使用して固定する。

【0006】

図 3 は二体の幅木本体が弾性材の前方に位置付けられている幅木と床材の納まり構造を示す要部縦断面図である。幅木 2 本体について説明する。下方に位置付けられる幅木 6 a 本体の長さ寸法は 3, 950 mm、厚み寸法は 10 mm、高さ寸法は 15 mm であり、高さ寸法に関してはこの幅木 6 表面に突き合わせられる床材 3 の厚み寸法に対応させられている。また、上方に

位置付けられる幅木 6 a 本体の長さ寸法は 3, 950 mm、厚み寸法は 10 mm、高さ寸法 55 mm である。この上下の幅木 6 本体は互いに重合させられているが固定されているものではない。次に幅木および床材の施工方法について説明する。まず、幅木 6 本体を上下に重合させ、弾性材 7 の表面に接着剤を使用して貼着、固定する。弾性材 7 の固定手段としてはこれに限定されるものではなく他にも両面テープを使用するなどの方法が考えられる。幅木 6 本体同士は固定されていないがこれは床材 3 が伸張して幅木 6 本体を押圧した時に下方の幅木 6 本体のみが後方向に移動できるようにするためである。この場合、上方の幅木 6 本体の移動は極力抑えられるため、不自然に幅木 6 本体が前傾するということなくなる。次に幅木 6 本体の裏面および下面に接着剤を塗布し、その裏面を壁 1 に、また、下面を床下地 2 に当接させてこの幅木 6 を固定する。最後に床材 3 の長さ方向の端部 4 をこの弾性材 7 の前面に当接させ、床材 3 を接着剤を使用して固定する。なお、幅木 6 本体同士の重合箇所に合わせて弾性材 7 に水平に切り込みを入れても構わない。

【0007】

図 4 は露出部分に化粧シ - ト材が貼着されている幅木と床材の納まり構造を示す要部縦断面図である。この幅木 6 本体の寸法および材質は図 2 において説明したものと同一である。また、弾性材 7 の寸法および材質も図 2 において説明した弾性材とほぼ同じであるが、幅木 6 本体と弾性材 7 が化粧シ - ト材 9 で被覆されているという点で異なっている。この化粧シ - ト材 9 は突板に塗装を施したものであるがこれに限定されるものではない。このように化粧シ - ト材 9 を使用することによって違和感のある弾性材 7 を目に付かないようにすることができる

【0008】

【発明の効果】

本発明では下方に位置付けられる幅木本体の高さ寸法が床材の厚み寸法とほぼ同寸法である幅木本体を使用することにより床材の膨張によって床材の端部が幅木を押圧する時に下方の幅木本体だけが後方向に移動することとなり、上方の幅木本体の移動が極力抑えられるために幅木本体が不自然に前傾するということなくなる。

10

20

30

40

50

【 0 0 0 9 】

また、床材の端部が幅木の前面に当接させられた時に現れる弾性材と幅木本体の露出部分が化粧シ - ト材によって被覆されている幅木を使用することにより施工後の幅木を美しく見せることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】弾性材が幅木本体の後方に位置付けられている幅木と床材の納まり構造を示す要部縦断面図。

【図 2】幅木本体が弾性材の後方に位置付けられている幅木と床材の納まり構造を示す要部縦断面図。

【図 3】二体の幅木本体が弾性材の後方に位置付けられている幅木と床材の納まり構造を示す要部縦断面図。

10

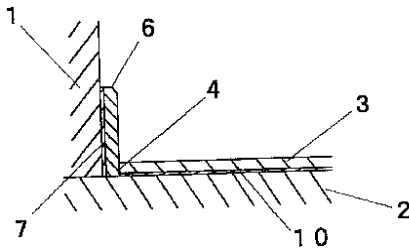
【図 4】露出部分に化粧シ - ト材が貼着されている幅木と床材の納まり構造を示す要部縦断面図。

【符号の説明】

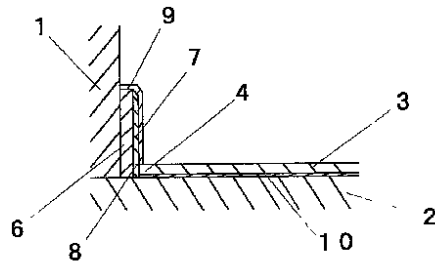
- 1 壁
- 2 床下地
- 3 床材
- 4 端部
- 6 幅木
- 7 弾性材
- 8 切り込み
- 9 化粧シ - ト材

20

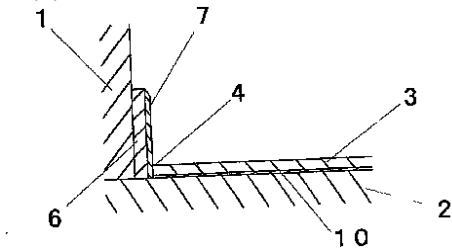
【図 1】



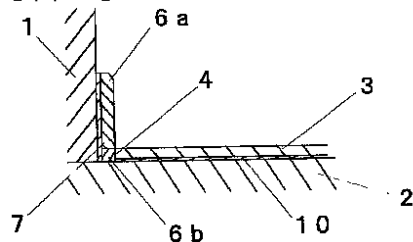
【図 4】



【図 2】



【図 3】



フロントページの続き

- (56)参考文献 実公昭48-030016(JP,Y1)
実開昭62-089453(JP,U)
実開平05-003467(JP,U)
特開平09-025712(JP,A)
特開平03-033362(JP,A)
実開平01-098850(JP,U)
実開平02-047335(JP,U)

(58)調査した分野(Int.Cl.,DB名)

E04F 19/04
E04F 15/00